

屋外展示場の木々の色が、深まる秋を感じさせるこの頃。澄んだ空にトウカエデの黄色が鮮やかです。



石神の丘美術館通信《いしび》

ishibi

2007.11.1 Vol.61

このトウカエデ(唐楓/カエデ科)には、よく見ると羽のついた種子がたくさんついています。風がふくと、プロペラのようにクルクルと回りながら種子が飛ぶ様子もご覧いただけるかもしれません。自然がつくる形や色の面白さや不思議を親子で楽しんでみてはいかがでしょうか。

企画展示室では、11月25日(日)まで『嶋屋征一展 空間へのアプローチ』を開催しています。嶋屋征一さんは、1961年から64年まで岩手町立川口中学校に勤務しました。川口地区の50歳代後半の方は「嶋屋先生」を覚えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

今回の展覧会では、学生時代の作品・川口中学校勤務時代の作品から最近作まで、およそ50点を企画展示室のほか、ホールや屋外展示場も利用して紹介しています。また、当時の川口中学校(現・JA 新いわて川口野菜集荷場)の航空写真など懐かしい写真もガラスケースにて展示しています。

今年も残り少なくなってきました。ショップコーナーでは、2008年石神の丘美術館オリジナルカレンダーの販売を始めました。A3サイズに12ヶ月分が掲載されたもので、1枚100円です。ぜひご利用ください。

嶋屋征一展 Seichi Shimaya 1959-2007

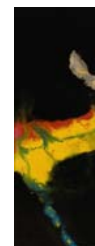
空間へのアプローチ

会 期:平成19年10月20日(土)~11月25日(日)

開館時間:9:00~17:00(入館は16:30まで) 会期中無休

観覧料金:一般300円/大・高生200円/中学生以下無料

←嶋屋征一《宙》油彩・合成樹脂・紙/板 1967年 114×38cm



アートサイト

舟越保武と一枚の葉

舟越保武先生に「一枚の葉」というエッセーがある。かつて私は舟越先生のことを「記憶と幻想の彫刻家」という意味のことを書いたことがあるが、この「一枚の葉」は、舟越先生の「記憶」についての特質がよく表れているように思う。

その「一枚の葉」の一部を抄出する。

「築川の土橋のそばの岸に立つて、私は、何のわけもなく気が昂ぶっていた。(中略)」

山近いこの川の、小さなせせらぎを背景にして、灌木の繁み

が私のすぐ前であった。

この繁みに、私は対つて立っていた。眼を凝らして、この繁みの一点をにらむように見据えていた。まばたきもしないで見据えたので、涙が出た。

それで灌木が、かすんだ。かすんでボヤけた眼の前が、やがてもとにもどって鮮明になりだしたとき、私の視野のまん中にある一枚の葉だけが、浮き出して見えた。(中略)

このとき私は、眼の前のこの一枚の葉を生涯忘れまいと、なぜか心に誓った。たった一枚の葉を、心に焼き付けて置こうと決心した。何の意味もないことだが、必ずこの葉を心に記録しようと思った。私が大人になり、老人になってからも決して忘れまい(以下略)」

舟越先生は、ご高齢になられ

てから、あるひとに求められ、この「一枚の葉」を鉛筆で描いている。まさに先生のすばらしい記憶力を証明する一枚といえる。先生の女性の顔を描いた素描なども記憶によって描かれたものが多い。

秋田県の田沢湖の湖面に立つ「たつこ」姫の像も、制作の前に田沢湖を視察する途中に雫石町でみかけた「雫石あねっこ」を記憶し、内面を通して構想した像であったことがある。現実と幻想を融和させた彫刻といえようか。

(芸術監督・六岡 康光)



← 嶋屋征一さん(左)の話に聞き入る来館者。手前の作品は《異空間'98》。(ミラー板で囲まれた空間に半球ミラーなどが設置され、合わせ鏡の効果で空間が無限に続くように見える作品です)

10月20日(土)には、嶋屋征一さんの講演会や交流会が行われ、川口中学校時代の教え子や、盛岡短期大学時代の教え子など多くの来館者でにぎわいました。

嶋屋征一展

空間へのアプローチ

11月25日(日)まで企画展示室で開催

Seichi Shimaya 1959-2007

企画展示室では、11月25日(日)まで「嶋屋征一展 空間へのアプローチ」を開催しています。1938年、北海道小樽市生まれの嶋屋征一(しまや せいいち)さんは、岩手大学学芸学部特設美術科を卒業後、岩手町立川口中学校に勤務し川口駅(現、岩手川口駅)前の旅館に下宿しながら4年間(1961-1964)を岩手町で過ごしました。

当時岩手町では、故齋藤忠誠さんを中心に町の美術愛好家らが集まり、美術団体「エコール・ド・エヌ」を結成しデッサン会などの活動をしており、嶋屋さんはこの団体に参加し交流を深めます。嶋屋さんは、岩手町を離れた後も「岩手町芸術祭」のポスターデザインや「岩手町国際彫刻シンポジウム」等で岩手町の文化活動に尽力されてきました。

今回の展覧会では、岩手町立川口中学校勤務時代の油彩作品から最近作までおよそ50点の作品を企画展示室だけでなく、ホールや屋外展示場でも紹介しています。



1962年10月、岩手芸術祭洋画展の会場(盛岡・川徳デパート)にて撮影された写真。川口中学校勤務時代の1枚。嶋屋さんは20歳代前半だった。写真に写っている作品《独》は、1963年第2回県展選抜展(会場:東京都美術館)に推薦出品された。



石神の丘美術館 冬期間(12月~3月)の 開館時間と休館日

12月から3月までは、冬時間となり、閉館時間が早くなりますのでご注意ください。また、この期間に限り、毎週月曜日が休館日となります。なお、11月中は、午後5時に閉館し、休館日はありません。

【12月~3月の開館時間と休館日】

開館時間:午前9時~午後4時
(入館は午後3時30分まで)
休館日:毎週月曜日
(月曜日が祝日の場合は開館しその翌日が休館日となります)
年末年始(12/29~1/3)

石神の丘美術館友の会共催 ヒメサコリ植栽の集い & 芋の子会

【日時】11月10日(土)

午前9時美術館ギャラリー集合

【日程】9:00集合→9:15~12:00

ヒメサコリやモミジの植栽、環境整備(クローバー除去)→12:00工房
棟に移動して芋の子会

美術館の初夏の風物詩となっているヒメサコリ。可憐な花をたくさん増やそうと毎年植栽の集いを開催しています。ぜひ、ご協力をお願いします。



美術館隣接 道の駅/レストラン「石神の丘」情報

このコーナーのお問合せ・ご予約は 道の駅「石神の丘」 TEL0195-61-1600まで

秋の収穫祭

11月10日(土)、11日(日)

10:00~15:00

道の駅・イベント広場

岩手町産の新鮮野菜をお買い得な値段で提供します。椎茸などのキノコ類、かぼちゃ、りんごなど秋の味覚もお見逃しなく!

漬物用野菜の格安販売もありますよ。今年は「漬け物」に挑戦して、



我が家の味を楽しんでみてはいかがでしょうか。

秋のコース料理



「奥羽牛のビーフシチュー」「りんごのムース」など季節の味を楽しめる「秋のコース料理」(税込 3,150円)は、

11月までの限定メニューです。予約制となっておりますので、上記電話番号までお申し込みください。

*レストランの営業時間

11月から3月までのレストランの営業時間は次の通りとなります。

営業時間 10:30~18:00

(17:30ラストオーダー)

*スタンプカード

いつもご利用ありがとうございます。感謝の気持ちをこめて11月中旬よりご利用に応じてお得になるスタンプカードを発行します。